

令和4年度 第2回依存症治療拠点機関研修「依存症と家族支援」の実施報告

地域連携室 中谷 祐子

令和4年11月11日（金）、令和4年度第2回依存症治療拠点機関研修「依存症と家族支援」を実施いたしました。今年度もZoom研修で藍里病院副院長の吉田精次先生にご講義をいただき、約90名の方に参加していただきました。吉田精次先生による研修は4回目となり、今回もとても実りのある研修となりました。

私たち支援者が、依存症を当事者に持つご家族自身の健康に目を向ける必要があることをいろいろな角度から講演をいただきました。ご家族が当事者のためを思って支援していく中で、支援者がそのあり方を問題として捉えると、ご家族は相談できる場所を失い孤立し、風通しの良くない状況を作ってしまうこと、我々支援者が、家族支援においては、ご家族をファーストクライアントと捉え、家族自身が健康になることの重要性に軸を置き、今までの苦労をまず認めること、最も重要なことは「親身さ」であるというお話がありました。共感、ぬくもりや顔の見える支援といったことは、理解したつもりでいても実際の臨床の場面においては、指示するような言葉かけをしていることもあると私自身の反省もありました。また、先生の「臨床のパワーは家族からもらっている」という言葉に、先生のご家族に寄り添った支援を強く感じました。ご家族が元気になることで、当事者に波及することを改めて聴き、先生が全国的に広められているCRAFTについて、もっと勉強させていただきたいと感じました。当事者の生活を大切にすることは、ご家族を孤立させず、家族支援をいかに丁寧にするかであるという考えを念頭におき、明日からの支援の活力をいただいた貴重な講演でした。